

取組事例 18 避難所外での活動に関する取組

1 女性専用スペースとしてクリニックを開放(ねがみみらいクリニック)

- ・ 自身が運営するクリニックの 2 階を開放し、女性専用スペースとして運営した。
- ・ スペースでは、生理用品やおむつ、防犯ブザー、健康維持のチラシ等を提供した。
- ・ 在宅避難者が自宅外で安心して過ごせる環境の提供につながった。
- ・ スペースの利用者やスタッフの交流の場となり、こどもの遊び場としても活用された。

2 地域による在宅避難者の見守り(鶺川公民館)

- ・ 在宅避難をしている高齢者には、安否確認を兼ねて避難所から炊き出しや支援物資を届け、地域で見守りを行った。
- ・ 各地域の近所の状況をよく知る人(男女ともに)による自宅訪問を実施した。実際に、骨折を我慢していた住民を発見し、病院へ搬送したケースもあった。

3 ホテル・旅館での支援継続(日本ファーストエイドソサエティ)

- ・ 2 次避難者を受入れたホテル・旅館において、地元業者や知人等と連携し、被災者に寄り添った支援を継続した。
- ・ 地元企業のネットワークと連携することで、必要な物資や環境整備を行った。

4 在宅避難者を含めた物資支援(被災地 NGO 協働センター)

- ・ 2007 年の能登半島地震をきっかけに、毎年交流していた地域(七尾市中島町小牧)のネットワークを活用して活動拠点を確保し、長期間活動するボランティアスタッフの宿泊場所、支援物資の保管場所(物資の送付先)として活用した。
- ・ 緊急災害対応アライアンス「SEMA」を通じて、男女別かつ多様なサイズの子ども服など、きめ細やかなニーズに応じた物資を調達し、在宅避難者を含めた被災者への配布を行った。
- ・ 物資を取りに来た人が気軽に立ち寄れるよう、物資配布スペースの横にサロンスペースも設置した。



5 避難生活の状況に合わせた支援(ピースポート災害支援センター)

- ・ 車中泊の避難者も、避難者として把握し、避難所と同じように物資や食事が行きわたるよう対応した。
- ・ 在宅避難者が多い地区では、区長を通じて人数を把握しながら、集まる場を設けて対応した。集会所等に避難している場合は、集会所へポータブル発電機や燃料、水、毛布などの支援物資を届けた。
- ・ 支援にあたっては、避難者の活力低下を防ぎ、常に自分たちで生活を維持できるようにするため、弁当のような出来合いのものではなく、不足する物資のみを届けるようにした。